

大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第10回地域生活部会議事録

文責：小松代（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第10回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和8年6月22日（火） 10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 集会室2			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	小松代 菜央	長崎 未奈
	朴 沙羅	山田 薫	藍 さとみ	渡邊 優美
	南雲 好晶	相澤 あゆみ	青山 明子	平井 有希子
	棧敷 洋子	金子 正	松浦 好美	
	区事務局：馬場 齋藤 小西 鈴木 中山			
(5) 内容・要旨	1. 議題 (1) 事務連絡 ・司会：伊藤部会長 書記：小松代委員 ・9/16(水)14:00～16:30 公開部会 新井宿会館集会室にて東京医療保健大学東が丘看護学部 岸恵美子教授による研修 今回と次回の部会で事例を集めて、岸先生に報告し検討していく。その後グループワークなども予定している。 ・9/15(火)地域生活部会は中止になる。 (2) セルフネグレクトに関する事例紹介・検討 3名の委員に事例を紹介してもらい、その後皆で検討した。 ◆精神疾患、一人暮らし、ゴミ屋敷、お金の使い方に問題あり、使い方を指導するも本人拒否。 ・第三者がどこまで介入できるのか。決定権は本人なので、本人が困っていないと介入できず支援できることが限られる。本人の意思決定に対し、どう支援していくのか。 ◆50代身体障がい者（車いす利用者）一人暮らし、家族とは断絶状態（本人の意思。家族からは関係事務所には連絡あり）、勤続30年、働く意思はある。福祉サービスを使うことへの強い拒否感、障害年金も受給していない。入浴しない。 体調を崩して入院した事をきっかけに自身の生活を見直さなくてはと思ったようで、福祉サービスの利用を開始した。 支援計画相談員が訪問の際、ゴミ屋敷であることもわかり、週2日ヘルパーによる掃除を行っている。 今後は入浴の機会をもつことが課題。 ・福祉サービスに拒否感のある人にはどのように声掛けして心理的ハードルを下げたらいいいのか考える必要がある。 ◆70代女性、障がいのある子供を施設入所させてからセルフネグレクト気味になっている。娘と同居しているが、関わりがない。しかし同居中という事実があり、支援者は介入しづらい部分もある。 認知症が進んできているように思うが受診はしておらず、福祉			

	サービスの利用につながってほしいが、行政の関わりを拒否。 次回 第 11 回「地域生活部会」 令和 8 年 7 月 21 日(火) 10:00～12:00 次回も 3 名の委員に事例を紹介してもらう。 以上
--	---